


DVD解説

【テーマ：高齢者】

題 名	保管	概 要
永遠の記憶 ～認知症を知る～	人権 30分 2018	認知症の症状をわかりやすく表現し、立場や環境が違う人を思いやる心をもつことの大切さを学ぶことができる教材です。 認知症を患っている拓三は、散歩の途中、公園でひとりゲームをしている少年の大輝に出会い話しかけます。そこで拓三は大樹に草笛を教えてあげます。仲良くなった二人は明日も会う約束をして別れました。しかし翌日、拓三は約束をすっかり忘れていました。高齢者を支える家族の姿、子どもたちのふれあいを通して高齢者の人権を考えるドラマ形式の教材です。
老いを生きる	人権 35分 2007	認知症を持つ富江は、徘徊癖があり家族を困らせていました。ある日、地域の人々のつながりから、認知症を持つ人のための家族の会を知った妻は夫と共に出席します。これをきっかけに、認知症を隠すのではなく、地域の人々などと助け合いながら、病気を認め暮らし始めます。地域の人々に支えられた富江とその家族は笑顔を取り戻していきます。
 おばあちゃんは認知症 ～お兄ちゃんからの手紙～ (アニメ)	人権 15分 2026	認知症の症状が進んだおばあちゃん、部活動も勉強も上手くいかず自分を見失っていた中学生の男の子とその家族、先の戦争で若くして亡くなったおばあちゃんの兄たちが織り成す物語を通して、認知症の人との接し方・相手を思いやることの大切さ・命と平和の尊さを伝えるアニメーション作品です。
家庭の中の人権 生まれ来る子へ	人権 25分 2017	このドラマは「家庭の中の人権」に目を向け、祖父母と孫夫婦の会話を通して、私たちの身の回りにおける人権問題をクローズアップしています。 <ul style="list-style-type: none"> ・おなかに赤ちゃんがいます ・よかれと思って ・愛情とは支配すること？ ・イクメンは変ですか ・親の介護をするのは誰 ・生まれ来る子へ <p>家庭の中で、人権の尊さについて語り合い、気づくこと、そして行動することの大切さを描きます。</p>
カンパニユラの夢	人権 36分 2020	作品のテーマは、「超高齢化社会とひきこもり（8050問題）」です。近年、主に「80代」の高齢の親が「50代」のひきこもりが長期化した子を支えている家庭が増加しています。「8050問題」とは、こうした家庭が地域社会との接点を失い、親子ともども生活が困窮するなどの課題を抱え、将来への展望が見いだせない超高齢化社会における新たな社会問題のことです。 背景には、家族や本人の病気、親の介護、離職（リストラ）、経済的困窮、人間関係など、複合的な課題を抱えながらも、親子共倒れの問題が発生するまでSOSの声を上げることができない、現在の超高齢化社会における「家族の孤立」が地域に潜在化していることがあります。 この作品は、二つの家族の視点で進行します。主人公（麻帆）はあることをきっかけに「ひきこもり」は誰にでも起こり得ることだと気づきます。一方、20年以上ひきこもり状態にある谷口とその両親は問題が長期化する中で、解決の糸口すら見いだせないまま苦悩しています。麻帆は谷口家の抱える問題に寄り添い、解決策を求め行動を起こします。 急速に高齢化が進む今、8050問題は誰にでも起こりうることで認識し、地域の人々がひきこもりなどの悩みを共有し偏見をなくするとともに、互いに助け合うことで地域共生社会の実現をめざす人権啓発ドラマです。
ここから 歩き始める	人権 34分 2015	「認知症を共に生きる」をテーマに、高齢者問題を人の幸せと尊厳を守るという人権の視点で描かれています。 認知症の親をもつ主人公とその家族の中で繰り広げられる、介護をめぐる葛藤と絆の紡ぎなおしを描くことで、高齢者が人間として誇りをもって生きていくうえで大切なことについて、家族や地域の視点を通して考えるきっかけとなるドラマ教材です。


DVD解説

【テーマ：高齢者】

題 名	保管	概 要
自分らしい明日のために	余呉 30分 2006	①一人暮らしの妹に異変が…！？認知症の疑いのある妹、珠代さんが悪質な商法に狙われていることを知った姉の芳子さんは、珠代さん生活を案じ、社会福祉協議会に相談に行きます。そこで、紹介された「法定後見制度」を利用することで、一つの光明を見出ししていきます。 ②元高校教師の義昌さんの妻、菊恵さんに認知症の疑いが・・・また、自分も物忘れが多くなり財産管理等が不安になり、「任意後見制度」を知り任意後見契約を結んで将来に備えます。
探梅 春、遠からじ (アニメ)	人権 40分 2011	人権課題の多くは、人を排除する意識から生まれ、人が孤立することで深刻化していきます。しかし、「困ったときはお互いさま」。その気持ちが人を温かく結び付け、助け合う社会へと導きます。 この物語は、内向的な性格の主人公・石田亜紀が、東京から、夫の故郷である北九州市へ引っ越したことを契機に展開します。 最初は、東京とは違う近所付き合いに戸惑う亜紀。近隣には、福祉協力員の世話好きな女性・照井邦子や、孤立した一人暮らしの男性・波岡康弘などが暮らしています。こういった人々をめぐるできごとから、亜紀はいつしか自分も福祉協力員となり、次第に地域の中に溶け込んでいきます。そして、かたくなな波岡の心へと働きかけていきます。
日常の人権 I ～気づきから行動へ～	人権 23分 2009	日常生活の中でいつの間にか身につけてしまった差別や偏見。今一度それを見直してみませんか。人が人として大切にされる権利、人権を考えることなくよりよい社会を作ることはできません。人権感覚に疎い人の言葉や態度が差別を生みます。そして人権を侵害されて苦しんでいる人の心の痛みを分かろうとしないことで、新たな人権侵害が起こります。まず身近な問題から人権について考える作品です。 この作品は「女性の人権」「子どもの人権」「高齢者の人権」についてドラマとドキュメンタリーにより構成されています。まず、ドラマパートでテーマごとに、日常にある偏見について気づきを促します。そして、どのような考え方や行動が、偏見をなくし、ともに生きるよりよい社会へ変えていけるかを考えていくきっかけになる作品です。
二本の傘 (認知症の人と、 そのサポートをする 人たちの為に)	余呉 20分 2015	雨の中、二本の傘を握りしめ家を飛び出す裕之。家族の懸命な搜索の中、握った傘をさすこともなく、ずぶ濡れになり警察に保護されていました。「もう人に迷惑をかけないで！」思わず大きな声を出してしまった妻の静江。認知症という病はご本人にも介護する家族にも大きな混乱と不安をもたらします。 様々な職種が連携しながらサポートすることが必要とされる認知症という病。その一つの職種「作業療法」の観点からから認知症の人が置かれている状況を「脳の障害」「環境」「人生史」で整理していきます。雨に濡れながらもしっかりと握りしめられていた二本の傘。その傘にはどのような想いが込められていたのでしょうか。認知症を患っても何ら変わることはない人に寄せる想い、やさしさに触れてみてください。
認知症と向き合う	人権 30分 2016	高齢化が進み、認知症の人が今後さらに増加することが予測されています。一方で多くの人たちが認知症に対して知識不足であり、偏見を抱えているのではないのでしょうか？確かに認知症の人の行動は不可解であり、その気持ちや行動の理由を理解するのは大変なことです。しかし、認知症の人の立場に立てば、どんな行動にも本人なりの理由や思いがあります。 健康な人の常識で認知症の人の言動をおかしいと判断し、改めさせようとするのが、介護する家族と認知症の人の両方を苦しめています。認知症の人の視点に立って、認知症への理解を深めることを目的としています。

DVD解説

【テーマ：高齢者】

題 名	保管	概 要
はじめて認知症の人に 接するあなたへ	人権 19分 2018	「認知症の症状についての正しい理解」と、「認知症の人への接し方の基本」に内容をしぼり、認知症についての基礎知識を学びます。わかりやすい解説と、大切なポイントに気づかせる適切なハウツー映像で、正しい知識を自然と身につけることのできる教材です。
 母のさがしもの ～認知症とともに生きる～	人権 32分 2025	認知症の症状は人によって様々です。このドラマでは、ある家庭の視点を通じて、症例を織り交ぜながら描くことで認知症に関する理解を深め、認知症の日との不安や家族の悩みを知り、本人や家族の孤立を防ぐために介護者や地域の交流の重要性を示すと同時に、本人の気持ちに寄り添うことの大切さを学びます。
防ごう高齢者虐待 日常の介護から考える	人権 28分 2015	高齢化の進む現代社会において、親や年老いた夫・妻の介護は、多くの人にとって避けて通れない問題となっています。このDVDでは、働きながら認知症の親の介護をしている2つの事例を、老老介護の話も含めドラマで描いていきます。どのような場面で虐待をしそうになるか示すことで、虐待発生を未然に防ぐにはどうすればよいかを考え、理解へと導く内容になっています。
「やさしく」の意味	人権 33分 2019	日本は2025年に65歳以上の約5人に1人が認知症患者になると言われています。認知症という言葉は知られていても、その多くは「どのように接したらよいかわからない」という戸惑いのイメージが先行し、正しく理解されていない現状があります。この作品は、敦賀市で開催された「小中学生の認知症サポーター作文コンテスト」で、最優秀作品に選ばれた小学4年生（当時）・三輪実由さんの『「やさしくする」ということ』という作文を脚色し、ドラマ形式の教育映画にしたものです。全国の認知症患者、その家族、そして彼らを取り巻く地域社会。一人一人が安心して暮らしていくためにできる工夫とは何かを示唆していくものです。
わっかカフェへようこそ ～ココロまじわる ヨリドコロ～	人権 35分 2016	あなたには「心のよりどころ」がありますか？ 忙しい日常に追われて、誰かと「心を交流する」ことを、おろそかにしていませんか？心を通わすことができる…そんな場所がありさえすれば… <ul style="list-style-type: none"> ・三色団子の向こう側 初めてスマートフォンを持つ中学生が主人公。 ・世代をつなぐ柏餅 高齢者の生きがいと若い世代の交流を描いています。 ・コンパイトウの来た道 日本に住む外国人とどう向き合おうかなげかけます。 インターネットと人権・高齢者の人権・外国人の人権の3つのテーマが収録されています。

借用の申し込みは、
各保管場所へお願いします。

